

このレポートは、IFA（国際肥料工業協会）が 2025 年 7 月にメンバーに公開された肥料中期展望報告の要約である。執筆者は IFA の市場情報サービス部の専門家で、毎年、向こう 5 年間の肥料需要と供給の予測を出している。

原文は英語で、下記の HP から直接にダウンロードすることができる。

[Public Summary - Medium-Term Fertilizer Outlook 2025-2029 - Fertilizer](#)

IFA の肥料中期展望 2025～2029 年（要約）

IFA マーケット インテリジェンス サービス

序文

このレポートは、IFA の市場情報サービス部が作成し、IFA 会員のみが利用できる IFA の中期展望プレゼンテーションおよびデータファイルに添付する公開要約である。

注記と定義：

- このレポートに示されているすべての数量データは、特に明記されていない限り、トンで表されている。製品のトン数は当該製品の物理的重量を指し、養分のトン数は、それぞれ窒素肥料、リン酸肥料、加里肥料に含まれている N、 P_2O_5 、 K_2O 量を表す。
- 窒素、リン酸および加里という用語は、世界中で生産および取引されているそれぞれの養分を含む肥料グループを示すために使用される。窒素、リン酸、加里という用語は、植物が必要とする養分を指す。
- 特に明記しない限り、年という期間は暦年を指し、年の前に FY がついている場合は肥料年度を指す。肥料消費量の報告に使用される基準期間は国によって異なる。各国は、1 月または別の月から始まる計 12 ヶ月の期間を 1 年としての肥料消費量の統計値を報告する。
- この報告書では、「FY」（肥料年度）は 1 年間 12 ヶ月の期間を指す。例として、FY2024 年度はラテンアメリカ、アフリカ、東アジア、東南アジア、EECA のほとんどの国で 2024 年 1 月から始まる年度を指す。北米、WCE、南アジアを含むその他の地域の場合、FY2024 は 2024 年第 2 四半期または年中に始まり、2025 年第 2 四半期または年中に終了する。肥料年度は、作物の栽培面積、収量、生産量に関する統計を報告するために使用される作物のマーケティング年と必ずしも一致するとは限らない。

免責声明

IFA は、状況に応じて合理的可能な範囲に於いて、正確な情報に基づき、報告書およびプレゼンテーションを作成するよう努力している。しかし、IFA またはそのメンバーは、IFA が公表または発表する情報の正確性を保証するものではなく、IFA の出版物またはプレゼンテーションの使用または信頼から生じる直接的または間接的な結果に対する一切の責任

を負えない。

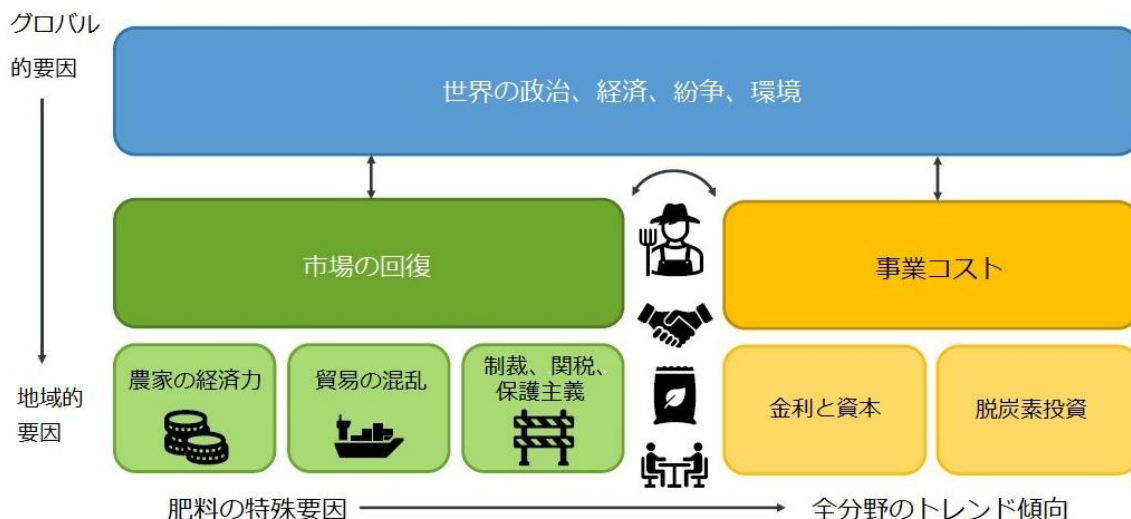
肥料市場見通しの背景

肥料市場は、マクロ経済および地政学的な不安定さを背景に推移し続けている。肥料需要の全体的な回復や注目度の高い地政学的動向から、地域的な価格動向、貿易の混乱、制裁、関税、保護主義による市場の不確実性まで、世界および地域における様々な出来事が市場に影響を与えている。

2025 年前半には、米中関係の急激な変化やトランプ大統領による世界の貿易相手国に対する包括的な関税の導入（その後は部分的な撤回）など、地政学的に大きな変化が生じた。これらの変化に加え、中東におけるイスラエルとイラン間の緊張の高まりは、貿易に大きく依存する世界の肥料市場に継続的な混乱リスクをもたらす。

過去 2 年間の肥料需要の回復は、地域、栄養素、作物によってそのペースと規模が異なっており、農家は事業コストの上昇に直面し、投入コストに敏感な状況が続いている。さらに一部の地域は政府の支援と有利な作物対肥料価格比率の恩恵を受けている一方で、他の地域では肥料価格の制約により施用量が制限されている。

肥料市場の推進要因



供給予測

2024 年は、地域的な課題の存在にもかかわらず、窒素、リン酸、加里の生産にとって好調な年である

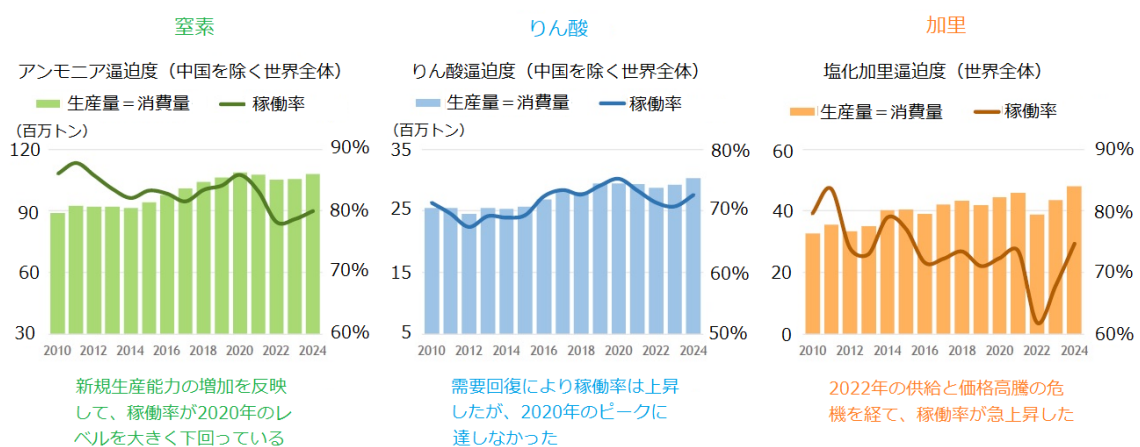
世界のアンモニア生産量は 2024 年に 1 億 9,050 万トンに達すると推定され、2023 年に比べて 3%増となった。尿素生産量も大幅に増加し、2024 年には前年比で 3%増の 2 億 100 万トンに達した。生産量の増加は、中国、ロシア、イラン、ナイジェリアを筆頭に、最近新

規生産能力への投資を行った国々に記録された。欧州では、天然ガス価格の下落により、特にドイツ、オランダ、ハンガリーの牽引により、生産量が 20%回復した。ボリビアではアンモニア生産が再開されたものの、ブラジルの工場閉鎖、トリニダード・トバゴとメキシコのガス供給問題で、ラテンアメリカの生産量は 2 年連続で 9%減少した。同様のガス供給制約は、エジプト、バングラデシュ、アルジェリア、イランにも影響を与えた。ロシアでは、尿素の輸出は堅調に推移したが、アンモニアの輸出は部分的に回復したものの、依然として過去の水準を大きく下回り、2021 年より 82%減の低い水準にとどまった。

世界のリン酸生産量は、稼働率の向上を背景に、2024 年が前年比 5%増の、過去最高の 8,960 万トンに達すると推定される。リン安 (MAP と DAP) 生産量も前年比 5%増の 6,720 万トンとなり、2020 年以降の 2 番目高い年間生産量を記録した。南アジア、北米、中央ヨーロッパでの生産量の減少は、東アジアとアフリカでの生産量の増加によって相殺された。特に中国とモロッコがこの成長に大きく貢献し、それぞれ 11%と 4%の増加となった。リン酸貿易量は 1%増加し、830 万トンとなり、過去 5 年間で最高の年間貿易量となった。MAP と DAP の貿易量も、2024 年第 1 四半期から始まった中国の輸出規制にもかかわらず、前年より 1%増加して 2,910 万トンとなった。サウジアラビア、ロシア、モロッコからの輸出量の増加が中国の輸出量の減少を補った。

世界の塩化加里生産量は、2024 年には 10%増加して 7,660 万トンに達し、過去最高の記録と推定されている。この成長は主に、ロシアとベラルーシが制裁措置への対応として新たに貿易ルートを開拓・樹立したことによるものである。さらに、カナダとラオスの塩化加里生産量も 2023 年と比較してそれぞれ 8%と 20%増加した。生産量の増加に伴い、塩化加里の貿易量は 2024 年も 10%増加して 5,990 万トンに達し、年間貿易量として過去最高となった。2022 年に塩化加里の価格高騰により貿易量が急激に減少した後、東アジアとラテンアメリカにおける需要の回復が貿易量の増加を大きく牽引した。

窒素、りん酸、加里の生産量が再び増加に転じたが、稼働率は依然として過去のピークを下回っている



キャパシティ予測は、各養分への地域投資ハブを浮き彫りにする

窒素肥料生産への投資は、アメリカ、ナイジェリア、カタール、UAE、ロシアを筆頭に、低コストの天然ガス資源を有する国と脱炭素化ハブに集中している。世界のアンモニア生産能力は、2024 年の 1 億 9,500 万トン N から 2029 年には 2 億 1,600 万トン N へと 10.5% 増加すると予測される。西ヨーロッパと中央ヨーロッパを除き、世界のすべての地域で生産能力の増加が見込まれている。中国のアンモニア生産能力は 2025 年に増加し、その後 2029 年まで横ばいになると予想される。一方、原料価格の高騰により、2024 年から 2025 年にかけて西ヨーロッパ、特にフランス、ドイツ、イギリスに生産設備の永久停止の波が押し寄せ、この地域の残りのプラントも断続的に稼働停止を経験していた。アメリカは、主に二酸化炭素の回収・利用・貯留（CCUS）を活用したブルーアンモニアプロジェクトを通じて、アンモニア生産能力を 22% 拡大すると予測される。UAE とカタールの主要な開発プロジェクトもこの技術に依存することになるだろう。電気分解を利用するグリーンアンモニア生産能力は引き続き投資家の関心を集めているが、今後 5 年間にプロジェクトの試運転に限られると予想される。IFA は 2029 年までに 310 万トン N のグリーンアンモニア生産能力が試運転されると予測しているが、これは世界のアンモニア生産能力のわずか 1.5% に相当する。しかしながら、2029 年以降も約 1 億 5500 万トン N のはるかに大規模な生産量の開発が検討され、最終投資決定を待っている。

リン酸生産能力は 2024 年から 2029 年までに 14% 増加し、2029 年に 7170 万トン P_2O_5 に達すると予測される。アフリカ、西アジア、東アジアがこの成長を牽引し、すでに進行中の投資に基づくと、2027 年と 2028 年には最も大幅な増加が見込まれている。昨年の傾向に沿って、新しい生産能力の増加はほとんどモロッコとサウジアラビアの既存生産者の拡張によるものである。ヨルダン、エジプト、チュニジアでも小規模な拡張が見込まれている。中国では、肥料以外の用途、特に電気自動車分野における国内需要の増加が生産能力の増加を牽引すると予想される。5 年間の予測に含まれる中国のすべての新しいリン酸プロジェクトは、従来の商用グレードのリン酸に加えて、精製リン酸（PPA）生産能力に関連している。中国以外では、新しい PPA 生産能力の大部分はカナダに出現すると予想され、2028 年には大規模プロジェクトが稼働を開始する予定である。

加里生産能力は、世界全体で 2024 年から 2029 年にかけて 20% 増加し、7740 万トン K_2O に達すると予測される。新規プロジェクトの数は比較的少ないものの、1 件ごとの規模は大きくなっている。カナダ、ロシア、ラオスがこの成長に大きく貢献すると予想される。スペイン、コンゴ共和国、タイでも中国からの海外投資の支援を受け、小規模な生産能力の拡張が見込まれている。

生産能力は新規工場の立ち上げによって牽引され、需要予想よりも速いペースで成長し、市場バランスが緩和されると予測される

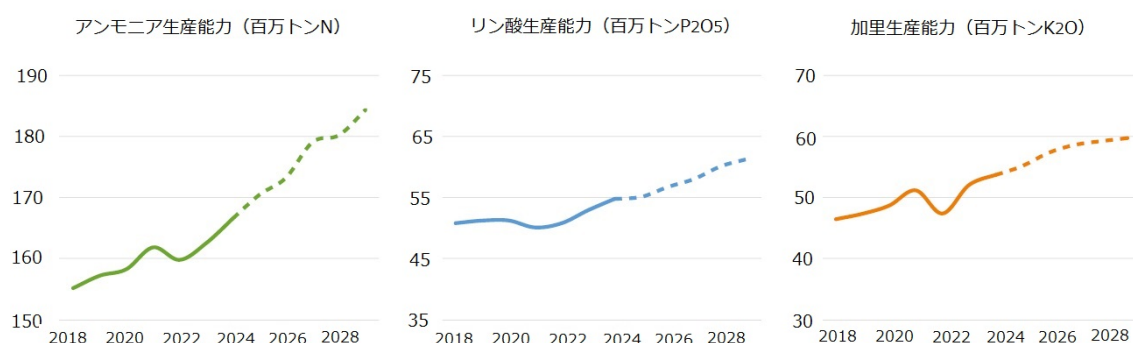
アンモニア生産能力は、2024 年の 1 億 6,660 万トン N から 2029 年に 9% 増加して、1 億

8,490 万トン N に達し、年平均成長率は 1.7% となると予測される。生産能力の増加は、世界中に広がる新しい工場の稼働開始によって推進され、ほぼすべての地域で生産能力が増加すると予想される。今後 5 年間、アンモニア生産能力は需要よりもわずかに速いペースで増加すると予想されるため、窒素バランスは、2022 年の理論的に利用可能な余剰量 340 万トンから 2029 年には 700 万トンに緩和すると予測される。なお、IFA の窒素需要予測には従来の産業用途が含まれているが、発電、水素運搬船、船舶燃料などの新興分野への低炭素アンモニア需要（まだ初期段階だが、）がまだ考慮されていない。

リン酸の生産能力は、2024 年の 5490 万トン P_2O_5 から 2029 年には 6140 万トン P_2O_5 へと 12% 増加すると予測される。この成長の主な要因は、モロッコ、サウジアラビア、中国、カナダによるものである。リン酸の生産能力が需要を上回ると予想されるため、リン酸の需給バランスは 2024 年の 440 万トン P_2O_5 余剰量から 2027 年には 590 万トン P_2O_5 へと増加すると予測される。肥料用リン酸の需要増加は鈍化しているが、精製リン酸（PPA）需要の急増によってほぼ相殺される。リン酸の需要増加は、PPA 需要が年間 5% 増加すると想定して、中期末までにリン酸の需給バランスを安定化させると予測される。

加里生産能力は、2024 年の 5380 万トン K_2O から 2029 年には 5980 万トンに達し、11% 増の見込みである。北米と EECA（東ヨーロッパ・中央アジア地域）が加里生産能力の増加を牽引すると予想される。カナダの大規模プロジェクト、およびロシアとラオスの既存生産者による複数の生産能力拡張計画が主な牽引役となるだろう。スペイン、コンゴ共和国、タイの小規模プロジェクトも生産量の増加が見込まれている。加里の供給は 2023 年までは比較的タイトであったが、その後は緩和し、今後 5 年間は良好なバランスを保つと予想される。理論上の加里供給余剰量は、2024 年には供給能力の 13%、2029 年には 14% と比較的安定すると予測される。

**世界の肥料生産能力は着実に増加しているが、
需要増加が遅れて稼働率が低迷している**



肥料消費量予測

IFA の世界肥料需要見通しを作成するための手法は、世界の肥料消費量の約 90% を占め

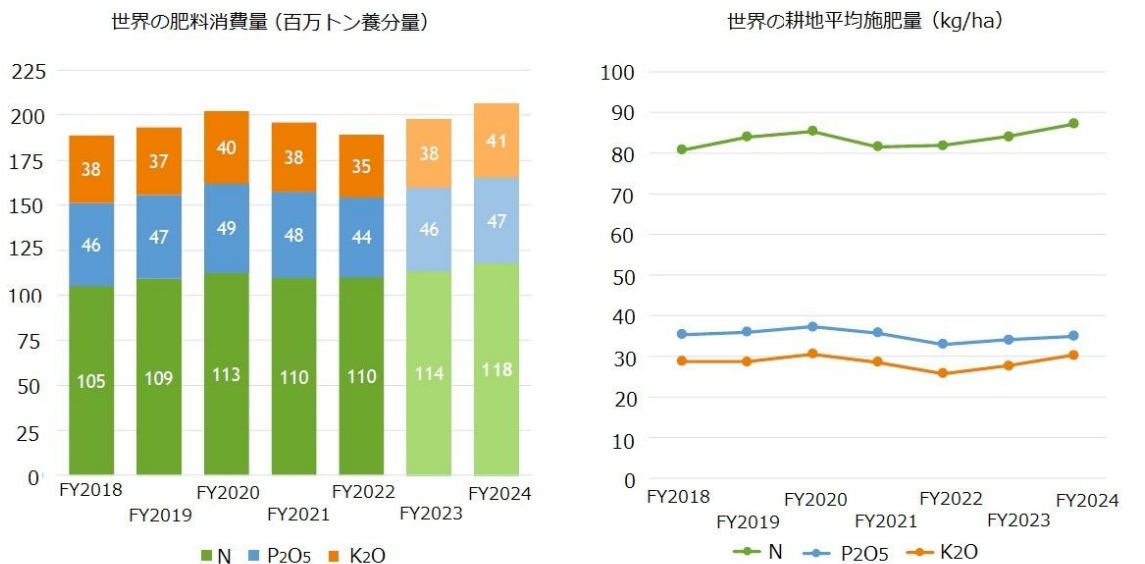
る約 50 か国の専門家を対象にする調査に基づいているものである。この調査結果は、農業および貿易データ、そして最新の市場情報によって補完される。

世界の肥料消費量は 2024 年度に回復し、過去最高記録を破る見込みである

世界の肥料消費量（N + P₂O₅ + K₂O）は 2021 肥料年度と 2022 肥料年度に大幅に減少した後、2023 肥料年度と 2024 肥料年度に回復した。肥料消費量は 2023 肥料年度に 4.5% 増加して 1 億 9,800 万トンとなり、2024 肥料年度にはさらに 4.4% 増加して 2 億 600 万トンに達すると予測される。これは、2022 肥料年度の最低値 1 億 8,900 万トンから 1,700 万トンの増加で、2020 肥料年度に記録された 2 億 200 万トンの過去最高消費量をさらに 400 万トン上回る。

養分消費量の回復は、主に肥料価格が 2022 年のピーク値から急落したことによるものである。2022 年の年中から 2023 年の年中にかけて、国際肥料価格はほとんどの作物価格よりも急速に下落し、肥料費用の負担が手頃になった。2023 年の年中から 2024 年 4 月にかけて、肥料価格は比較的低いレベルに留まっているが、養分の間には顕著な差が見られた。窒素肥料と加里肥料は作物に比べて一定の価格競争力を維持していたが、リン酸肥料はその価格がやや負担となった。

2024 肥料年度の世界窒素消費量が過去最高を記録することにより、全養分の消費量が新記録となった



養分消費量は力強く回復しているものの、養分種類によって回復の度合いは異なる。世界の窒素消費量は、2023 肥料年度に 1 億 1,400 万トン N、2024 肥料年度に 1 億 1,800 万トン N となり、2022 肥料年度の消費量より 500 万トンも増加して、2 年連続で過去最高記録

を更新する見込みである。一方、世界の加里消費量は、2024 肥料年度には過去最高の 4,100 万トン K_2O に達すると予測されて、過去ピーク時の 2020 肥料年度より 1.5%増の 60 万トン多い。一方、リン酸の消費量は緩やかな増加傾向が見込まれ、2024 肥料年度には 4,700 万トン P_2O_5 に達する見込みだが、過去最高の 2020 肥料年度の 4,900 万トン P_2O_5 より依然として 4%少ない。

世界の肥料施用率は 2020 肥料年度の水準まで回復した

肥料の全体消費量を世界の農作物収穫面積で割ることで算出された耕地単位面積の平均肥料施用率は、2024 肥料年度には 152kg/ha と推定される。2022 肥料年度と比較して 12kg/ha の増加で、2020 肥料年度の水準まで回復される。これ以上の増加が見られないのは、世界の農作物総収穫面積が 2014 年から 2023 年の間に年平均で 0.7%の増加にとどまったためである。

2024 肥料年度の窒素肥料 (N) の世界平均施用量は 87kg/ha と予測され、2020 肥料年度より 2kg 増加する見込みである。加里肥料 (K_2O) の平均施用量は 30kg/ha と推定され、2020 肥料年度から横ばいである。リン酸肥料 (P_2O_5) の平均施用量は 35kg/ha となる見込みで、2020 肥料年度より 2kg 減少している。

2023 肥料年度と 2024 肥料年度の世界全体の窒素消費量は、年間で 3%を超える持続的な増加が見込まれる、これは主に価格の低下により入手しやすくなったことと、東アジアおよび南アジアの人口の最も多いいくつかの国が行っている食料安全保障政策によって促進されたものである。

この傾向は特に中国とインドに於いて顕著で、2023 肥料年度にはこの両国で世界窒素消費の 40%を占めた。インドでは、手厚い尿素補助金に支えられ、窒素消費量は長期にわたって増加する傾向である。中国では、肥料利用効率を促進する政府の政策により、2015 肥料年度から 2017 肥料年度にかけて窒素消費量が減少したが、食料安全保障が再び国家の優先事項となった 2022 肥料年度には、再び増加に転じた。中国政府は、輸入依存度を低減するためにトウモロコシの生産を積極的に奨励し、農家に国内肥料の手頃な価格を維持するために、化学肥料の輸出制限を実施している。

最近、インドネシアなど人口の多い他のアジア諸国も食料安全保障戦略と肥料補助金制度を強化している。窒素肥料は作物の収量向上に不可欠な役割を果たすので、依然として最も優先度の高い養分である。2022 肥料年度から 2024 肥料年度にかけての世界全体の窒素肥料消費量の増加は、東アジアと南アジアが牽引し、次いではラテンアメリカであった。

世界の加里肥料消費量は、2023 肥料年度と 2024 肥料年度にそれぞれ 8~9%増と大幅に増えた。これは、特に大豆やパーム油などの作物における価格上昇によるものである。加里はリン酸と比較して価格の低下による手頃さも追い風となった。多くの農家にとっては 2 年間の加里肥料施用量を削減した後、土壌中の加里養分を補充する機会として活用された。北米と EECA を除くほとんどの地域では加里消費量の力強い増加が見られた。全体としては

この期間における世界の加里肥料消費量の増加は、主に東アジアとラテンアメリカによって牽引された。

一方、世界のリン酸肥料消費量は、価格の手頃さにより、2023 肥料年度には 4%、2024 肥料年度に 2.5%と緩やかな伸びにとどまった。リン酸肥料は、他の肥料に比べて価格が高く、作物価格との比較に於いても不利であった。最大の消費地域である東アジアと南アジアでは、消費量はまだ回復されておらず、ウクライナ紛争の影響で EECA（東ヨーロッパ・中央アジア地域）と西ヨーロッパおよび中央ヨーロッパでも消費量は低迷している。

これに対して、農家はリン酸肥料施肥量の削減、養分不足が最も深刻な畑をターゲットに絞る施肥、あるいは通常製品を低グレードまたはより安価な代替品に置き換えるなど、様々なコスト削減策を採用した。その結果、世界の肥料消費量（ $N + P_2O_5 + K_2O$ ）に占めるリン酸の割合は、2021 肥料年度の 25%から 2022 肥料年度には 23%に減少し、その後も回復していない。

中期的に世界の肥料消費量はより緩やかに増加すると予測される

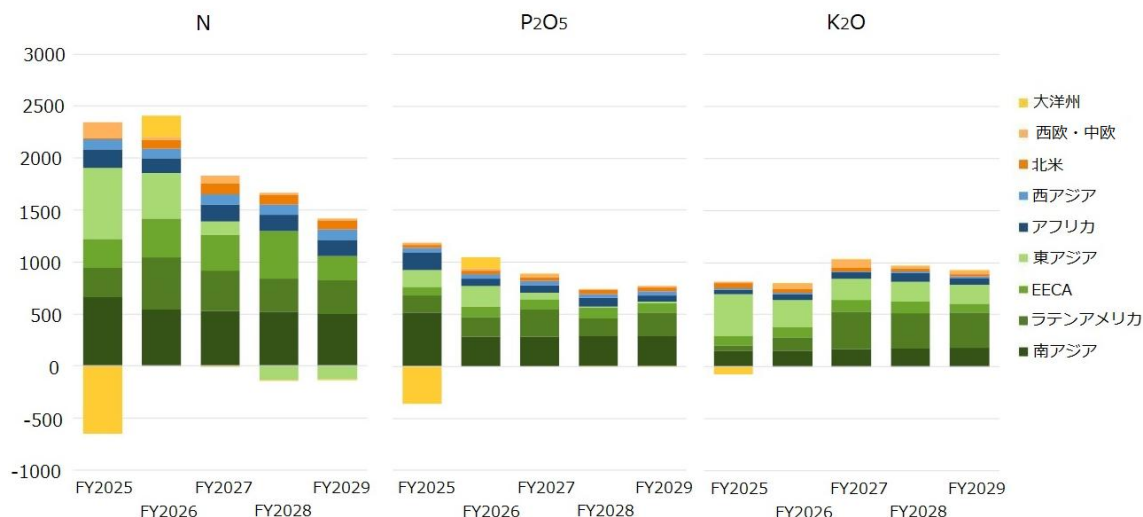
世界の肥料消費量は、2025 肥料年度から 2029 肥料年度にかけて引き続き増加するものの、そのベースは 2023 年と 2024 年の 2 年間よりも緩やかであると予測される。年間成長率は 1%から 2%で、2029 肥料年度には全体の消費量は 2 億 2,400 万トンに達すると予測される。これは、2024 肥料年度に比べて 1,800 万トン（9%増）の増加となる。3 大養分のうち、年間成長率は窒素とリン酸の 1~2%に対して、加里の使用量は最も急速に増加し、2~3%になると予測される。

IFA の各国専門家に中期的に肥料需要に最も影響を及ぼす要因を特定するよう求めた結果、肥料価格、作物価格、気象条件が主要な要因として浮上した。二次的な要因は国によって異なる傾向があり、農業生産と肥料使用を支援または阻害する政府の政策や規制（補助金、貿易制限、環境規制など）に加え、その国の経済状況も含まれる。これらの一次要因と二次要因は相互的に関連していることが多く、政府の行動は国内の肥料価格に直接影響を与える可能性がある。

南アジアとラテンアメリカは、2025 肥料年度から 2029 肥料年度にかけて世界の肥料需要増加の主な原動力となり、この期間中にそれぞれ 400 万~500 万トンの養分需要量の増加があると予測される。南アジアは窒素（N）とリン酸（ P_2O_5 ）の需要を牽引し、ラテンアメリカは加里（ K_2O ）の消費量増加を牽引すると予測される。EECA（東ヨーロッパ・中央アジア地域）と東アジアは、それぞれ世界の肥料需要増加に 3 番目と 4 番目の貢献を与えると予測されて、この期間中にそれぞれ 200 万~300 万トンの養分需要量の増加があると予測される。

一部の地域では他の地域より大きな成長が見込まれている

予想される肥料需要の年間成長率（千トン養分）



東アジアの成長率はわずか4%と予測されているものの、その市場規模の大きさから、実数量では大きな牽引役となる。中国では、窒素（N）およびリン酸（P₂O₅）の消費量は、緩やかなペースではあるものの引き続き増加すると予測されて、期間の終わり頃には横ばいか減少に転じる可能性もある。東アジアにおける加里（K₂O）の消費量は、特にパーム油生産国で増加し続けると予測される。EECA（東ヨーロッパ・中央アジア地域）では規模は小さいものの、ロシアの農業生産および肥料使用の継続的な拡大、ウクライナの緩やかな回復に牽引され、中期的には27%という大幅な成長が見込まれる。アフリカと西アジアも市場規模は小さいものの、一定の成長が見込まれている。2025 肥料年度から 2029 肥料年度の間に、アフリカでは 150 万トン（19%増）、西アジアでは 80 万トン（15%増）の増加が見込まれる。

北米と西欧・中欧（WCE）は成熟市場であり、今後5年間で3~4%の成長率、より緩やかな成長が見込まれている。北米では、貿易関税をめぐる緊張により、アメリカの輸出市場の継続性に不確実性が生じている。欧州では、環境規制の強化と2026年から開始される炭素国境調整メカニズム（CBAM）の導入により、農家の肥料コストが上昇し、この地域における需要の伸びが鈍化する可能性がある。

オセアニアは依然として天候の変動に非常に敏感な市場であり、肥料使用量は年によって大きく変動する。2年連続で好天に恵まれ、農業生産も好調であったことから、肥料消費量は2025年に減少し、その後は中期的に200万トンをわずかに上回る水準で安定すると予想される。

以前の需要見通しとの比較

2024 年 7 月に発表した IFA の前回の中期肥料見通しと比較すると、2023 肥料年度および 2024 肥料年度の肥料消費量予測は大幅に上方修正されている。ただし、2025 肥料年度から 2028 肥料年度までの予測成長率は、前回の見通しと概ね一致している。

2028 肥料年度までに、窒素肥料（N）消費量は前回の予測より 300 万トン増加して、一方でリン酸肥料（ P_2O_5 ）消費量は 100 万トン減少すると予測される。加里肥料（ K_2O ）消費量は、2024 年の前回予測値より約 100 万トンの増加と予想される。